

通し番号	4970
------	------

分類番号	R01-24-14-01
------	--------------

春どりダイコンは適品種の選択と直がけ2重被覆で栽培できます	
[要約] 県北西部中山間地域において、直がけ2重被覆栽培による、簡易な春どりダイコン栽培が可能である。本栽培法により、播種期と品種（‘春桜舞’、‘春宴’及び‘晩抽直春’）の組み合わせにより、4月上旬から5月中旬まで連続的に収穫できる。	
神奈川県農業技術センター・北相地区事務所	連絡先 042-685-0203

[背景・ねらい]

県北西部中山間地域は冬季の最低気温が低いが、適応品種、農ビトンネル、長繊維不織布直がけ及びマルチ資材の利用により、春どりダイコンの栽培が可能である。しかし、農ビトンネルの利用は、設置や換気作業に熟練及び労力を要し、さらには、積雪によるトンネルの倒伏を防ぐため、除雪が必要となる。そこで技術的熟練のハードルを下げるため、トンネルを用いない直がけ2重被覆による春どりダイコン栽培を確立する。

[成果の内容・特徴]

- 1 幅130cmのベッドを農ポリマルチ（黒）で被覆し、条間×株間＝35cm×25cm、4条植えて播種する。播種後、長繊維不織布（商品名「パスライト」、幅210cm）を直がけ被覆し、その上に割繊維不織布（商品名「ベタロン」、品番DT-650、幅200cm）を直がけ被覆する。1穴3粒播種し、5葉期を目安に間引く。マルチ及び被覆は播種1週間前までに行って事前に地温を上げておく。割繊維不織布の除去は降霜に注意して適宜行う。試験地での実施事例における12月下旬から2月上旬までの被覆内の気温は、-8℃から30℃程度であり、地温は3℃から13℃程度である（図1）。
- 2 ‘春桜舞’（雪印種苗）は11月下旬から1月上旬播種により、本栽培方法で4月上旬から下旬に収穫できる。‘春宴’（雪印種苗）は12月中旬から2月中旬播種により、本栽培方法で4月中旬から5月中旬に収穫できる。‘晩抽直春’（カネコ種苗）は1月中旬から2月中旬播種により、本栽培法で4月下旬から5月上旬に収穫できる（表1）。

[成果の活用面・留意点]

- 1 表1に示した以外の播種時期と品種の組み合わせでは、空洞症等が発生する可能性がある。
- 2 本作型では、生育が進み収穫適期を過ぎると抽苔が発生するので、収穫遅れに注意する。

[具体的データ]

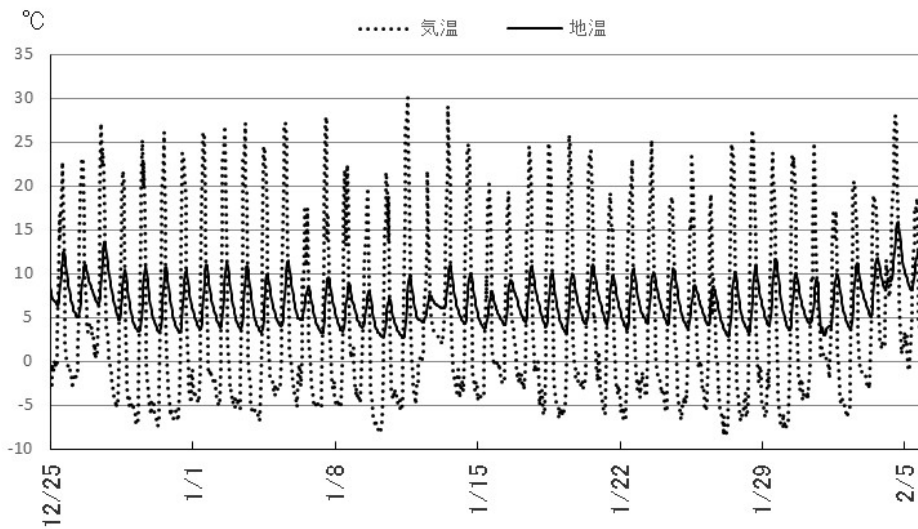


図1 ダイコン直がけ2重被覆栽培における被覆内の気温及び地温 (2017年-2018年)

表1 直がけ2重被覆による春どりダイコン栽培試験結果 (2016~2019年度)

播種月	品種	播種日	収穫日	調整重 (kg)	抽苔 (5cm以上)	生理障害	試験年次
11月播種	春桜舞	11月21日	4月9日	1.00	なし	なし	2018年度
	春桜舞	12月5日	4月12日	1.16	なし	なし	2019年度
	春桜舞	12月18日	4月9日	0.83	なし	なし	2018年度
12月播種	春桜舞	12月20日	4月22日	1.23	なし	なし	2019年度
	春宴	12月15日	4月14日	1.25	なし	なし	2016年度
	春宴	12月20日	4月22日	1.33	なし	なし	2019年度
1月播種	春桜舞	1月10日	4月25日	1.20	なし	なし	2019年度
	春宴	1月14日	4月25日	1.12	なし	なし	2016年度
	春宴	1月16日	4月23日	1.20	なし	なし	2018年度
	晩抽直春	1月14日	4月25日	0.97	なし	なし	2016年度
	晩抽直春	1月16日	4月23日	1.19	なし	なし	2018年度
2月播種	春宴	2月14日	5月16日	1.32	なし	なし	2017年度
	春宴	2月14日	5月1日	1.19	なし	なし	2018年度
	春宴	2月21日	5月13日	1.61	なし	なし	2019年度
	晩抽直春	2月14日	5月1日	1.18	なし	なし	2018年度

[資料名] 平成28年~令和元年度試験研究成績書(北相)

[研究課題名] 多様な担い手に対応するユニバーサル生産技術の開発
 (ア) 北相地域における野菜類の省力栽培技術の確立
 a 春どりダイコンの直がけ栽培試験

[研究期間] 2016年(平成28年)~2019年(令和1年)

[研究者担当名] 渡辺茂、武田甲

[協力・分担関係] なし